

# テクニカルダイアリー



ハダニは、一度まん延してしまつと防除が難しく、農薬散布を何度も行うこととなります。近年は天敵の導入が進み、使用方法も確立しているため、大きな被害になることは少なくありません。ただし天敵の導入前の防除を徹底することや、使用で

### ハダニ類対策



写真② ヨトウムシ

昨年は夏場の高温により、育苗期の管理が非常に難しく、また、定植後の芽なし株が多く見られ、初期生育に大きく影響しました。病害虫に関しては、定植から収穫の直後までにヨトウムシ(写真②)が多く見られ、防除に非常に苦戦しました。ヨトウムシ対策には表③を参考にしてください。

ハダニは一度まん延してしまつと防除が難しく、農薬散布を何度も行うこととなります。近年は天敵の導入が進み、使用方法も確立しているため、大きな被害になることは少なくありません。ただし天敵の導入前の防除を徹底することや、使用で

### 天敵製剤

①スパイカルEX、②スパイデックス、③ミヤコバンカー、④スパイカルプラスなどがあります。③・④については袋の中に天敵と餌が入っており、長い時間放出される資材です。時間はかかりませんが、継続的效果があるため、導入時の防除さえしっかりしていれば、長期間安定してハダニを抑えることが可能です。設置してから外に出るまでの時間がかるため、天敵に影響の少ない農薬であれば使用可能です。導入時期は、直接放飼す

きる農薬が限定されるため、使用時には注意が必要です。  
●天敵導入前の準備  
導入前にはハダニをゼロにする必要があります。農薬を数回にわたり散布して徹底的に防除しましょう。  
定植前はモベントフロアブルを天敵導入45日以上前に使用し、定植後はトランスフォームフロアブルを天敵導入15日以上前に使用してください。  
この他に、ヒタイチ、ダニサラバフロアブル等を使用し、ハダニのいない状態を作りましょう。

表③ ヨトウムシの防除薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用回数
ヨーバルフロアブル	2500～5000倍	2回以内
アフーム乳剤	2000倍	2回以内
コテツフロアブル	2000倍	2回以内
グレーシア乳剤	2000倍	2回以内
ディアナSC	2500～5000倍	2回以内

※使用時期はすべて収穫前日まで

表④ イチゴのうどんこ病に登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用回数	作用特性
ベルコートフロアブル	2000～4000倍	5回以内	予防
フルピカフロアブル	2000～3000倍	3回以内	
アフエットフロアブル	2000倍	3回以内	
ショウチノスケフロアブル	2000倍	2回以内	治療
ラミック顆粒水和剤	1000倍	2回以内	
トリフミン水和剤	3000～5000倍	5回以内	

※使用時期はすべて収穫前日まで

### うどんこ病対策

近年、農薬散布の回数が減つたことで、問題も多くなっています。発病し、白い粉が見えたときには抑えることが難しくなるので、定期的なローテーションで発生を未然に防ぐ必要があります(表④参照)。うどんこ病は乾燥

時に発病することが多いですが、実際は湿度が高くなつたときに起こるため、多湿が予想されるときに予防剤を散布することがポイントです。また、気門封鎖剤(ヒタイチ・サフォイル・ピタ等)も予防効果が期待できますので、併せて散布を行いましょう。

本年は昨年引き続き、べと病の発生が見られ、後半には雨量が多く軟腐病も発生しました。作柄は9割が2Lやしで大玉中心となり、収量は前年を大きく上回り、価格も前年を上回る傾向となりました。

### 病害虫対策について

#### べと病

べと病(写真①)は、湿度が90%以上、気温が10～20℃(最適温度は15℃)の条件を好みます。条件がそろえば数時間で発病し、感染が非常に速いという特徴があります。

症状としては、光沢がなくなり黄緑色に変色し葉が折れやすくなり、最後には枯死に至ります。初めは圃場の一部に発生し、徐々に全体に広がっていきます。発病株を発見した場合は、速やかに圃場の外に除去してください。多発してから農



写真① べと病

薬防除を行っても効果があまり期待できないので、発病前の予防散布に努め、葉の裏までしっかり薬液がかかるよう、また展着剤を加えて防除しましょう。

#### 軟腐病

軟腐病は鱗茎の肥大期から見られ、初めは下位葉の葉鞘部が灰白色または淡褐色に変わり、病状が進むと鱗茎が軟化腐敗し悪臭を放ちます。また貯蔵・輸送中にも腐敗症状が発生します。病原細菌は土壌中に生息し、虫害や農作業などによる傷から侵入します。排水が悪い圃場で発生が多くなるので、排水対策を徹底しましょう。

#### ネギアザミウマ

雨が少なく乾燥傾向の場合に多発するため、注意しましょう。成虫は体長1mm程度の褐色で細長く、幼虫は体長1mm以下で黄色く細長いのが特徴です。成虫、幼虫ともに食害を行い食害痕は

表① 玉ネギに登録のある殺菌剤一覧

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	対象病害	特性
リドミルゴールドMZ	500～1000倍	収穫7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病	予防・治療
ジマンダイセン水和剤	400～500倍	収穫3日前まで	5回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病、黒斑病ほか	予防
ダコニール1000	1000倍	収穫7日前まで	6回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病	予防
プロボーズ顆粒水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病	予防・治療
ランマンフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	4回以内	べと病、白色疫病	予防
バリダシン液剤5	500倍	収穫3日前まで	5回以内	腐敗病、軟腐病	予防・治療
カスミンボルドー	1000倍	収穫7日前まで	5回以内	軟腐病	予防・治療
スターナ水和剤	1000倍	収穫7日前まで	5回以内	軟腐病	予防・治療

「かすり状の白斑」となり、多発すると、葉全体が白化し生育抑制や枯死を引き起こします。発生状況に応じ7～10日間隔での防除が必要です。

#### タネバエ

幼虫が鱗茎に侵入し食害する

表② 玉ネギに登録のある殺虫剤一覧

薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数	対象害虫
ダイアジノン粒剤5	3～5kg/10a	播種時または定植時	2回以内	タネバエ、タマネギバエ、コガネムシ類幼虫
ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	ネギアザミウマ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ネギハモグリバエ
ファインセーブフロアブル	1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内	ネギアザミウマ
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	

ため、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗します。タネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があるため、発生の多い圃場では播種時や定植時に牛ふん、鶏糞等の有機質肥料を多用しないようにしましょう。